

出前講座の取り組み紹介

近畿整備局研究発表会で
専門工事業団体では初の参加 優秀賞を受賞

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は7月11～12日の二日間、大阪合同庁舎1号館・第1別館で開催された近畿地方整備局が主催する「平成25年度研究発表会」に参加し、この中の「地域づくり・コミュニケーション部門」で「出前講座～鉄筋工事とひとづくり・ものづくり～」をテーマに、岩田理事長が初日の11日、出前講座開催のきっかけからこれまでの活動実績、今後の課題や展望について発表しました。専門工事業団体が参加するのは初めてです。

約15分の発表時間の中で岩田理事長は、最初に耐震偽装事件後の社会の反応がきっかけとなり広報活動の重要性を痛感し、建設技術展への出展や出前講座等に取り組み始めたことを説明。出前講座については、これまで3年間の活動実績などを紹介した上で、課題として「人的・費用的な面で組合単独としては限界がある」と話し、国や自治体の協力、支援を要望しました。今後の展望については「人々が安心して暮らせる建物をつくるため、そして建設業に携わる人々の家族の暮らしのため、職人が安心して未来予想図を描ける業界を目指して挑戦していきたい」と締めくくりました。

また、発表後の質疑応答で「国や自治体に望む具体的な支援内容」について問われた岩田理事長は、「講師となる職人の確保など人的な支援とともに、職業訓練センターなど国や自治体の施設を活用し、一度に複数校の生徒を教えることができれば効果的だ」との考えを示しました。

なお、今回の「出前講座」は26課題が発表された「地域づくり・コミュニケーション部門」で優秀賞を受賞し、表彰式では近畿地方整備局の谷本光司局長から岩田理事長に賞状が贈られました。優秀賞は「出前講座」を含め5課題が選ばれました。

二日間の研究発表ではこのほか「調査・計画・設計部門」26課題、「施工・安全管理対策部門」26課題、「防災・保全部門」26課題、「新技術・新工法部門」26課題、「行政サービス部門」21課題と、技術展示として8課題が紹介されました。

